

楠見西小学校ふるさと学習フィールドワーク資料

和歌山市立博物館

日時 令和3年11月12日(金) 午後1時30分～3時30分

コース 楠見西小学校～伊久比売神社～蓮乗寺～淡島街道～同小学校

1 六箇井(ろっかい)・新六箇井(しんろっかい)

紀ノ川の北岸を流れる用水路(ようすいろ)。用水路は田んぼに水を引くための水路です。この用水路は古く、今から758年前(鎌倉時代かまくらじだい)にはすでにありました。水は遠く今の岩出市(いわでし)から取り入れ、和歌山市山口、直川(のうがわ)などをへて小豆島(あずしま)で紀ノ川に合流していました。江戸時代になると、現在の橋本市(はしもとし)の出身であった大畑才蔵(おおはたさいぞう)がこの用水路を栄谷(さかえだに)までのぼしました(1697年までに延長)。さらに船所(ふなどころ)出身の中村成近(なかむらなりちか)が中心となってこの用水路を木ノ本、松江までのぼしました。

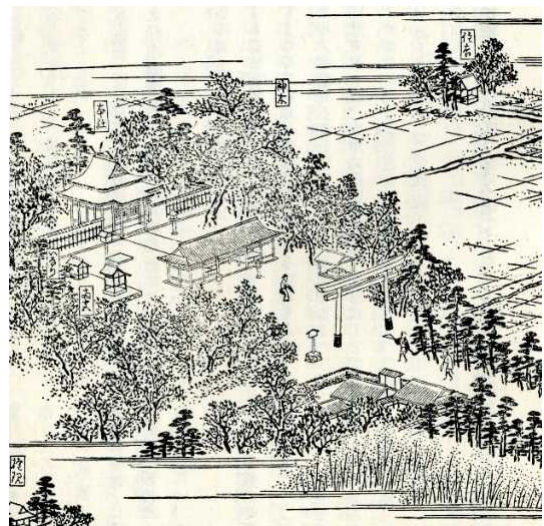
ついで1864年、船所出身の楠見信貴(くすみのぶたか)が中心となり新六箇井を作りました。これは六十谷(おそた)南部の井口から鳴滝川(なるたきがわ)をとおり、船所で二つに分かれ、一方は楠見(くすみ)、市小路(いちしょうじ)をとおり木ノ本へ、もう一つは粟(あわ)から紀ノ川北側の平野を流れています



2 伊久比売神社(いくひめじんじや)

市姫大明神(いちひめだいまじょうじん)ともよばれ、楠見地方の神です。むかしはこのあたりは紀ノ川の河口(かこう)あるいは海だったといわれます。だから神社は今の地よりも東北のほうにあり、河口が安定してくるとこのあたりに神社が移ってきたとつたえられます。市姫については、京都に市姫神社がありますが、これは市場(いちば)の神とされます。このあたりは市小路(いちしょうじ)といいますが、これは市場(マーケット)があったからだといわれています。

境内(けいだい)には大きなくすのき(市指定:和歌山県の木)や地元の人たちがおさめた灯ろう、合祀(ごうし=いっしょにまとめる)された神様などがあります。



3 平井(ひらい)

紀ノ川北部の和歌山市の地名。平井はもと加太(かた)の町の名前で、そこにいた人々がうつってきたので、その町の名前をとって平井としたといわれています。古代にはこのあたりにみなとがあり「平井津」とよばれていました。平井は国のおさめる土地で、ここに米の収納所(しゅうのうしょ)があったのです。港があり、米をあつめる場所があったということはここが経済(けいざい)のさかんな土地であったということがわかるのです。

4 孫一ゆかりの蓮乗寺(れんじょうじ)

仏教(ぶっきょう)の浄土真宗本願寺派(じょうどしんしゅうほんがんじは)のお寺です。戦国時代(せんごくじだい)に活躍(かつやく)した鈴木孫一(すずきまごいち)ゆかりの寺として知られています。孫一は「雑賀孫市(さいかまごいち)」ともいわれていますが、正しくは鈴木孫一重秀(しげひで)です。孫一のくわしいことはわかっていません。1562年から1584年までの古文書(こもんじょ)にその名前が出てきます。1562年にはすでにこのあたり「十ヶ郷(じゅっかごう)」の有力者(ゆうりょくしゃ)となっており、雑賀衆(さいかしゅう)のリーダーの1人です。1570年石山合戦(いしやまかっせん=おもに織田信長と本願寺の戦い)がはじまり、信長(のぶなが)が雑賀を攻撃(こうげき)すると、雑賀衆は鉄砲(てっぽう)をもって戦いましたが、このときのリーダーがやはり孫一でした。孫一はやがて一線(いっせん)をしりぞきましたが、その一族と思われる人々も活躍(かつやく)しています。

また、平井の近くにあった浄土真宗の大谷道場(おおたにどうじょう)の主(あるじ)でもありました。

① 蓮乗寺墓碑銘(れんじょうじぼひめい)

平井孫市郎藤原義兼の墓

正面「釈法誓墓」(しゃくほうせいはいか)

左「雑賀住平井孫市郎藤原義兼」(さいかのじゅうひらいまごいちろうふじわらのよしかね)

右「天保三年(1832)壬辰(じんしん)五月上旬改」

「天正十七年(1589)己丑(きちゅう)五月二日」

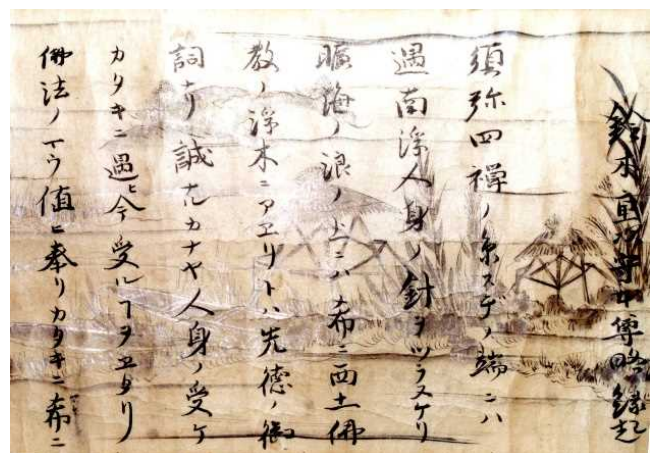
裏「当寺九世現住正因再建之」(とうじきゅうせいげんじゅうまさより?これをさいけんす)



② 鈴木重次守本尊略縁起

(すずきしげつぐまもりほんぞんりやくえんぎ)

雑賀荘(さいかのしょう)の雑賀孫市義兼(さいかまごいちよしかね)と別ればなれになった息子(むすこ)の豊人(よしひと?)との話。豊人が父に会おうと大阪に出向き、父と再会(さいかい)できた不思議(ふしぎ)な縁(えん)について書かれています。豊人は後には鈴木孫市重次(すずきまごいちしげつぐ)と名を変え、水戸(みと)の藩士(はんし)となったと伝えています。

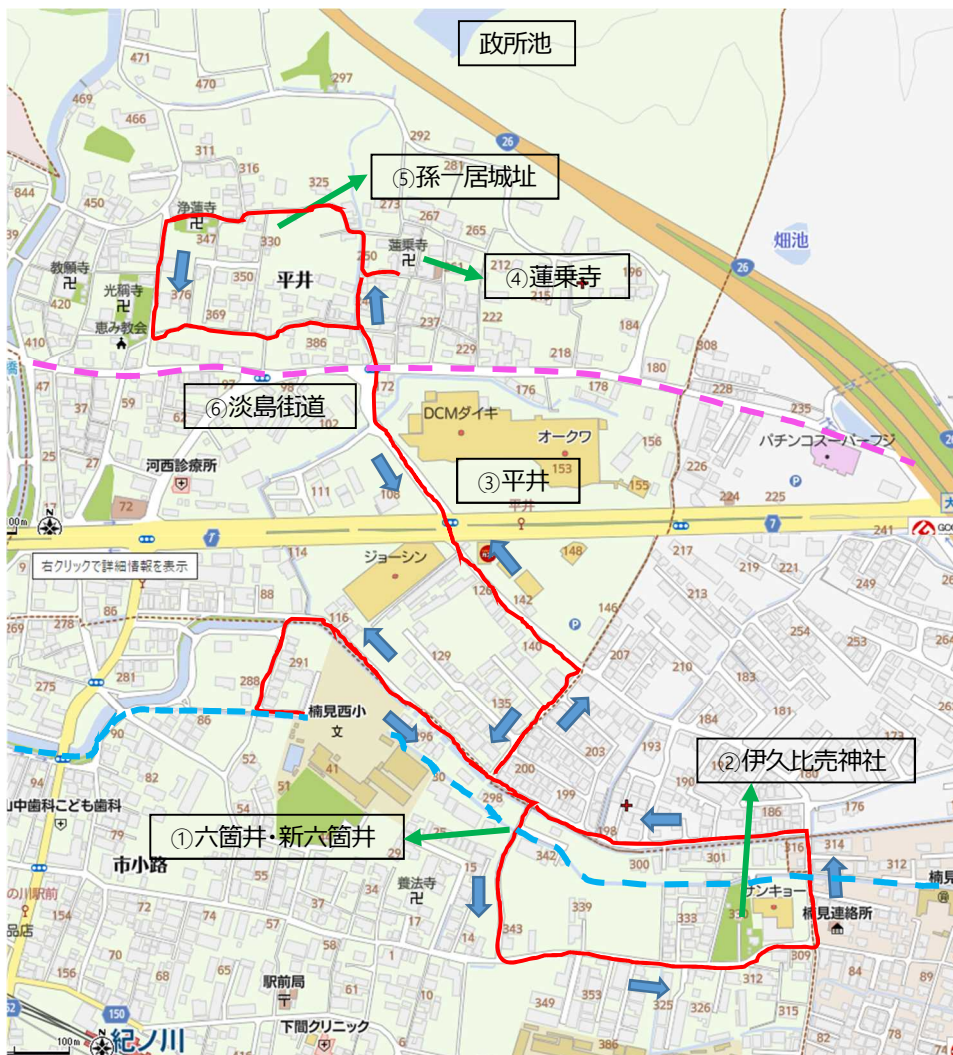


③ 方便法身尊像(ほうべんぼっしんそんぞう)

阿弥陀如来(あみだによらい)の立ちすがたをえがいた絵。阿弥陀如来はすべての人々をすくってくださる仏です。ほんとうはこの阿弥陀如来には姿(すがた)も形(かたち)もありません。でもそれではわかりにくいので、私たちをすくおうと目に見える姿になって現(あら)われたのがこの絵(方便法身)です。おそらく1580年に平井の孫一に与(あた)えられたものと考えられます。

5 孫一居城址(まごいちきよじょうし)

鈴木孫一が住んでいたと伝えられる場所(ばしょ)が蓮乗寺の西約100mのところにあります。これは蓮乗寺の言い伝えです。1577年、織田信長(おだのぶなが)が雑賀を攻撃(こうげき)した際(さい)、中野城(なかのじょう)をせめおとし、その後で孫一の居城をせめました。そのとき信長軍は竹たばをもってたたかいました。これは孫一側の鉄砲(てっぽう)を信長が警戒(けいかい)した証拠(しょうこ)です。でもくわしいことはわかっていません。ほかにも孫一の居城址とされる場所があります。



6 淡島街道

(あわしまかいどう)

紀ノ川北側を東西に走る約30数kmの道で、和歌山市の加太(かた)から紀の川市粉河(こかわ)で大和街道(やまとかいどう)に合流(ごうりゅう)します。根来街道(ねごろかいどう)、淡路街道(あわじかいどう)ともよばれ、沿道(えんどう)には淡島神社(あわしまじんじや)、根来寺(ねごろじ)、粉河寺(こかわでら)などの大きな神社や寺院があります。古代の国道、南海道(なんかいどう)は少し北よりにあり、一部重(かさ)なっています。